

序章 計画の改定にあたって

- 1 計画の目的**
本市農業が市民に安全・安心で高品質な農産物を安定的に供給できる価値の高い産業として持続的に発展できるよう総合的・計画的に施策を推進するために策定
- 2 計画期間** 平成26年度から平成35年度までの10年間
- 3 計画の位置づけ** 第5次宇都宮市総合計画の分野別計画
本市農業政策の基本指針

2 日本の状況

- (1)低迷する食料自給率・・・「主要先進国の中で最低水準」
・供給熱量ベース40%前後
- (2)加速する経済連携・・・「低価格で大量の外国産農産物が流入」
・13の国・地域とEPA(経済連携協定)を締結(H25.3現在)
・環太平洋パートナーシップ(TPP)協定交渉への正式参加
- (3)変化する食料消費構造・・・「食品産業の役割が高まっている」
・調理食品の消費支出割合が上昇傾向
・単身世帯及び高齢者世帯における食の外部化が進行
- (4)高齢化する担い手・・・「農業・農村の衰退に懸念」
・農業従事者の高齢化、農村地域の過疎化

第1章 農業を取り巻く社会環境の動向

- 1 世界の状況**
・食料需要について・・・「今後も増加」
世界人口の増加や新興国における所得水準の向上、バイオ燃料の生産拡大
・食料供給について・・・「不安定性の高まり」
地球温暖化や資源の枯渇等の不安要素の増大
⇒中長期的には食料需給がひっ迫

- 3 日本の農業政策の方向性**
・農地法の改正(H21.12)⇒所有者主義から利用者主義へ
・食料・農業・農村基本計画(H22.3)⇒食料自給率目標50%
・「農林水産業・地域の活力創造プラン」(H25.12)
⇒「強い農林水産業」と「美しい活力ある農山漁村」の創造
農業・農村全体の所得を今後10年間で倍増

- 【4つの改革】
- ①経営所得安定対策の見直し
 - ②日本型直接支払制度(多面的機能支払)創設
 - ③水田フル活用と米政策の見直し
 - ④農地中間管理機構創設

農業行政の大転換期

第2章 本市農業の現状と課題

1 本市農業の現状

- ・農家・担い手・・・農家数は減少、担い手は高齢化
⇒「自給的農家」・「大規模・高額販売農家」が増加
- ・経営耕地・・・過去20年減少傾向
⇒大半が水田(H22:全体の86%, 9,305ha)
- ・農業産出額・・・過去15年減少傾向
⇒過去15年で構成比に変化なし(稲作中心の生産構造)
- ・市民意識・・・「安全で安心な食」や「食育」に関心が高い
⇒近年では、「農村環境の維持・保全」の関心が高まっている。

本市農業を取り巻く環境や現状を踏まえて

2 本市農業の特性

本市農業の強み	本市農業の弱み
生産規模が大きい	耕地面積当たりの生産額が低い
幅広い生産品目	全国レベルの農産物が少ない
高い圃場整備率	営農組織化の遅れ
大都市に近い立地	農地の面的集積の遅れ
食関連企業等が多く立地	他産業での雇用機会の充実
他産業との連携体制の確立	農村コミュニティ機能の低下

⇒農業の成長産業化の素地はあるが活かしきれていない。

4 本市農業の重要課題

- (1)地域の状況や営農方向に応じた「担い手の確保・育成」
- (2)農地を適正かつ効率的に利用する「戦略的農地利用の推進」
- (3)稲作中心から収益性の高い農業へ「生産構造の転換」
- (4)市場ニーズ把握から生産・流通・販売を一体的に進める「市場ニーズを捉えた販売戦略の構築」
- (5)将来にわたり人と環境に優しい「環境保全・資源循環型農業の促進」
- (6)市民の農に対する理解を高める「“わが村”意識の醸成」

《あるべき状態に近づくために》

- 基本目標Ⅰ**
「生産力」の向上：農業の「将来性」を豊かにします
目標値 認定農業者総所得額 44億円(H25) ⇒ 53億円(H35)
- 基本目標Ⅱ**
「販売力」の向上：消費者の「手に入れやすさ」を高めます
目標値 うつのみや産青果物の国内市場取扱金額 74億円 ⇒ 89億円(H25) (H35)
- 基本目標Ⅲ**
「地域力」の向上：市民の「郷土愛」を醸成します
目標値 宇都宮の農業・農村を大切にしたいと思う市民割合 23.7%(H25) ⇒ 50%以上(H35)

第3章 本市が目指す農業都市像

担い手いきいき！消費者にっこり！
市民が主役の「農業王国うつのみや」

基本理念(あるべき状態)

- 農業者：産業としての農業に魅力を感じ、自信と誇りを持って元気に楽しく営農している
- 消費者：安全・安心でおいしい、うつのみや産農産物をいつでも身近に味わえている
- 市民：農業王国の一員として、その発展に貢献すると同時に、恩恵を受けている

第4章 基本施策

(◎：新規施策 ●：拡充施策)

基本目標Ⅰ 「生産力」の向上

基本施策1 地域に必要な担い手の確保

- 個別施策 (1)地域の中心となる担い手の確保
(2)将来の担い手の確保
(3)女性や高齢者等の農業への参画促進

- [主な施策の方向性]
●「人・農地」プランの充実・強化
●若年層就農者の確保
●高齢者・障がい者の就農支援

基本施策2 強くやさしい担い手の育成

- 個別施策 (1)農業経営力の向上
(2)効率的な生産技術の導入促進
(3)安全と環境に配慮した農業の推進

- [主な施策の方向性]
●意欲ある担い手への支援の強化(6次産業化の推進)
●高度農業技術の開発支援
環境保全型農業への取組支援

基本施策3 生産性・効率性の高い生産基盤の整備

- 個別施策 (1)戦略的な農地利用の推進
(2)優良農地の確保・保全
(3)農業生産施設等の効率化

- [主な施策の方向性]
◎大規模園芸団地の整備
遊休農地等の利活用の推進
◎農業生産施設の再利用の推進

基本目標Ⅱ 「販売力」の向上

基本施策1 市民と農家を結ぶ地産地消の強化

- 個別施策 (1)市内マーケティングの強化
(2)手に入れやすい仕組みづくり
(3)市民が支える仕組みづくり

- [主な施策の方向]
◎市内市場ニーズの収集・分析
●直売所等の充実・強化
●学校給食等を起点とした地産地消の推進

基本施策2 流通・販売戦略の構築

- 個別施策 (1)多様な販売チャネルの導出
(2)安全・安心の見える化
(3)情報発信力の強化

- [主な施策の方向性]
◎国内外市場ニーズの収集・分析
安全・安心への信頼確保に向けた取組強化
多様なメディアを活用した広告・宣伝の強化

基本施策3 市場を意識した農産物の生産振興

- 個別施策 (1)ブランド商品の生産振興
(2)需要に応じた農産物の生産振興

- [主な施策の方向性]
新たなブランド商品の創出(アグリネットワークの活用)
◎用途に応じた米の生産振興

基本目標Ⅲ 「地域力」の向上

基本施策1 持続可能な営農環境の形成

- 個別施策 (1)多面的機能の維持・向上
(2)農村生活環境の整備・保全

- [主な施策の方向性]
◎地域農業の守り手の確保・育成
農道等の計画的な整備・保全

基本施策2 農業・農村の魅力発信

- 個別施策 (1)農育・食育の推進
(2)都市と農村の交流促進

- [主な施策の方向性]
農育・食育体験活動等の充実・強化
●グリーン・ツーリズムの推進

第5章 「農業王国うつのみや」創造戦略プラン

各種事業が連携して実施されるよう基本施策を攻めの農業(競争力強化)と守りの農業(持続力養成)の視点から横断的に5つのプロジェクトとして設定

競争力強化プラン～力強い産業として確立する力を高めます～

- プロジェクト1 未来の担い手育成プロジェクト
- プロジェクト2 収益性の高い農業実現プロジェクト
- プロジェクト3 誰もが欲しがる農産物創出プロジェクト

持続力養成プラン～持続可能な農業として確立する力を高めます～

- プロジェクト4 人と環境にやさしい農業・農村実現プロジェクト
- プロジェクト5 活力あふれる農村づくりプロジェクト

第6章 計画の推進にあたって

- 【生産者】消費者ニーズを捉えた、良質な農産物の安定的な生産に努める。
- 【農業団体】スケールメリットを活かした販売戦略を実践する。
- 【販売・加工業者】本市農産物の消費拡大や新たな可能性を創出する。
- 【消費者・市民】地産地消への貢献や農業農村環境の保全活動に取り組む。
- 【市】関係機関の調整役として活動を支援するとともに必要な施策事業の最適化を図る。
- *農業公社：計画の主力推進役として事業を具現化・実施する。